目　次

口　絵
刊行のことば
凡　例
第一章　旧石器時代から古墳時代の加茂……1
第一節　加茂の地形・地質～歴史の舞台……2
第一項　粟ヶ岳と加茂川……2
加茂市の位置と地形　粟ヶ岳と加茂川の地形・地質　下大谷で発見された魚の化石
第二項　加茂川の段丘と沖積平野……5
加茂川流域の河成段丘　段丘面上のローム層　火山灰とローム層の形成年代　段丘形成の特徴　平野の地形　沖積層の分布　平野の遺跡分布と地形の変遷
第二節　旧石器時代の加茂……14
第一項　日本列島と新潟県の旧石器時代……14
人類の進化と旧石器時代　後期旧石器時代の環境　植生と動物相　旧石器時代遺跡と石器群の変遷　台形様石器群　ナイフ形石器群　尖頭器石器群　細石刃石器群
第二項　加茂川流域の旧石器時代遺跡……21
丸山遺跡の石器群　牛ヶ沢B・山王原・岩野原遺跡　丸山遺跡の性格
第三節　縄文時代の加茂……26
第一項　縄文文化の特色と変遷……26
縄文時代のはじまり　縄文時代の時期区分　縄文文化の特色　土器様式の広がり
第二項　加茂周辺にみる縄文文化の広がり……29

加茂市長　藤田明美

加茂市の縄文遺跡　草創期の遺跡と遺物　加茂川流域の早・前期　中期の遺跡の諸相　水源池遺跡の火炎土器様式　後・晩期の遺跡と遺物
第三項　縄文ムラの暮らし……36
ムラの規模とかたち　住まいにかかわる施設　日々の暮らし　縄文の祭祀と儀礼
第四節　弥生・古墳時代の加茂……41
第一項　弥生文化の特色……41
弥生時代の始まりと時期区分　弥生時代の様相
第二項　加茂周辺の弥生文化……43
弥生中期の遺跡　弥生後期の遺跡
第三項　古墳文化の特色……49
古墳の出現　新潟県内の古墳　市域の古墳
第四項　古墳時代の暮らし……54
土師器と須恵器　低地に広がる集落
第二章　古代の加茂地方……61
第一節　大王政権と蒲原地方……62
第一項　高志の北端……62
前期古墳の造営　部民制の波及　北限の国造
第二項　大和と蝦夷の間……67
国評制の施行　渟足柵と磐舟柵　高志国の分割
第二節　律令時代の蒲原郡……72
第一項　越後国蒲原郡……72
越中国から越後国へ　蒲原郡の景観　蒲原郡の郡衙
第二項　蒲原郡の郷……78
郷の設定と郷名　日置郷　桜井郷　勇礼郷　青海郷　小伏郷
第三節　律令制下の暮らし……85
第一項　民衆の負担と活動……85
租・調・庸　労役と災害　逃亡してきた家族　鶉橋荘と槐田荘　蒲原郡の式内社と人々の祈り
第二項　加茂周辺の古代遺跡……92
古代遺跡の分布と土器の流通　集落の展開と官衙関連遺跡　出土文字資料からみた集落

古代の埋葬遺構
第四節　蒲原平野の開発と荘園制の展開……108
第一項　在地の変貌……108
沖積地の開発　国司と在地勢力の競合　中世荘園の成立　越後国の中世荘園と国衙領
第二項　加茂市周辺の中世荘園と国衙領……114
石河荘の成立と荘域　青海荘の成立　青海荘の荘域　上条と下条　近隣の荘園と国衙領
第三項　古代文化の終焉と在地武士団の成長……122
郷名の消失と式内社の衰微　人名の変化　加茂山の経塚　在地武士団の成長
第三章　中世の戦乱と加茂地方……127
第一節　鎌倉時代の加茂地方……128
第一項　治承・寿永の内乱と越後国……128
城氏の滅亡　荘保の再建
第二項　鎌倉時代の石河荘と青海荘……132
石河荘と青海荘曽祢新保の相論　青海荘の地頭　三人の下総氏　神領としての石河荘
第二節　争乱の世……139
第一項　南北朝の内乱……139
越後の南北朝の内乱　宗良親王・新田義宗の来越
第二項　上杉氏・長尾氏と山吉氏……142
上杉氏と長尾氏　応永の大乱　段銭帳からみえるもの　青海荘・加茂荘の段銭徴収責任者
第三項　荘園支配の変質……148
青海荘の場合　大槻荘の場合　石河荘の場合　徳従の石河荘への下向
第四項　戦国の争乱……153
戦国の世へ　謙信登場　加茂山の戦闘　山城と館　番城となった加茂城
第三節　豊臣政権のもとで……165
第一項　新発田の乱……165
景勝の新発田攻め　景勝の上洛
第二項　太閤検地……168
豊臣秀吉の検地　検地の内容　賀茂村検地帳の分附記載　国替え
第四節　中世びとの生活と信仰……176

第一項　中世びとの暮らし……176
戦国時代の村　戦国時代の村役人　村に住む人　商人と職人　中世びとの暮らし　呪術にすがる生活
第二項　中世の交通と交易……184
海の道　内陸水路の舟運　銭貨の流通　埋納された理由　年貢の銭納
第三項　開発の進展……191
開発の進展　新田移民の伝承
第四項　神と仏への祈り……193
神仏習合　地元の神と他所の神　西国からの勧請神　北陸からの勧請神　信濃・下野からの勧請神　加茂明神の神事と祭礼　鎌倉新仏教の誕生　時宗の活躍　浄土真宗の展開　法華宗の動向　曹洞宗の展開　平安仏教の盛衰
談義所としての長福寺　霊場での供養
第四章　近世社会の成立と加茂……213
第一節　新発田藩の支配と加茂組・鵜森組……214
第一項　越後一揆……214
秀吉の越後仕置　関ヶ原合戦と越後　越後一揆の展開　一揆勢の再攻勢と加茂山
第二項　近世前期の新発田藩の支配……222
慶長三年の検地　家臣知行の村と藩主直轄の村　郷村支配の進展　組と大庄屋　村々の発展　延宝検地と年貢増徴　さまざまな役負担　年貢米の川下げ
第三項　新発田藩政の展開と社会の変動……248
元禄・享保期の加茂地方　延享の地平均　飢饉の続出と村の変化　天明飢饉と地改め　天明七年の加茂町騒動
第二節　村上藩・村松藩の七谷支配……263
第一項　村上藩領時代の七谷郷……263
村上頼勝・忠勝の支配　堀直竒の元和検地と土免　組と大肝煎　堀直重の分封と七谷
第二項　村松藩と七谷組……270
村松藩の成立とその支配　寛文惣検地　年貢と諸負担　七谷米の大坂回米　藩財政の悪化と七谷

第三節　村内で支配が異なる下条・天神林……290
第一項　旗本知行所の下条・天神林……290
溝口氏の三分家創出と下条・天神林　承応三年の立会検地
第二項　池端知行所と幕府領……293
元禄七年の支配替え　新発田藩預り所と幕府の直轄支配
第三項　池端知行所と三日市藩領……297
柳沢氏の三日市藩　池端領と三日市領の税負担　池端領の下条中村　市川家と下条村
第五章　加茂町と市域の村……309
第一節　村落と農民……310
第一項　治水と河道の整備……310
信濃川と古信濃川　加茂川の河道変更　古下条川と天神村・山嶋村
第二項　加茂郷・鵜森郷の新田開発……318
開発の進行　鵜森郷の発展　山畑の開発　御林山の新田
第三項　境界をめぐる紛争……331
加茂郷・下条郷の境界争い　鵜森郷・茨曽根村の紛争
第四項　村のしくみ……337
近世の村　本家と名子　村役人　村役人の系譜　五人組と宗門改め　村の変化
第五項　村のくらし……355
稲作と畑作　村人の生活と領主の統制　村の休日
第六項　水利と入会……362
加茂郷の水利　加茂郷の排水江筋　下条郷の水利　下条川の普請と堰　鵜森郷の水利　入会山
第二節　加茂町の発展……373
第一項　加茂町と上条新町……373
加茂町の姿　新町の成立
第二項　町の仕組み……379
町政の仕組み　加茂町の五か組　加茂町・上条村の家数と人口
第三節　加茂明神と八幡宮……387

第一項　加茂明神の発展……387
近世前期の加茂明神　大神主高橋光実と加茂明神の復興　元禄相論　神宮寺と宮坊　大明神の山上移転　古川之仲と「賀茂三社記」　寺請からの離脱と神道葬祭　年中行事と加茂祭り　寛政上知と加茂明神　境内と神輿の復興
第二項　八幡宮の発展……408
八幡宮と新発田藩　神道裁許状の獲得　八幡宮と七谷郷　境内の普請と藩　吉田家江戸役所の回国と論理　加茂上条集会の結成　神葬祭相論と組織の発展　拝殿の再建　神事と神楽の整備　本殿の再建　御神幸の再興と六角神輿
第六章　近世社会の変容と加茂地方……431
第一節　幕府代官の直支配と加茂……432
第一項　加茂組村々の上知……432
寛政元年の支配替え　村役人の交替　年貢納入の変化
第二項　幕府代官の直支配……441
陸奥出百姓と北関東縁付女の送り込み　出雲崎代官の支配　石瀬代官と水原代官の支配　出雲崎代官の再支配　村高の見直し
第二節　村松領全藩一揆と寛政以降の新発田領嘉茂組……458
第一項　文化十一年の村松藩領全藩一揆……458
家老堀玄蕃による藩政改革　一揆の発生と七谷組　藩役人の処罰と一揆頭取の処刑
第二項　小組となった嘉茂組……464
寛政七年の堤外地検地　小組の万雑　楮・漆木の増植と明田川家
第七章　交通・産業の発達と加茂……473
第一節　街道と宿場……474
第一項　加茂組・七谷組の街道……474
山通りの街道　村松藩の街道と黒水宿
第二項　加茂宿の機能と実態……476
大橋と並木道　加茂宿・黒水宿の継ぎ立て先と人馬賃銭　人馬の負担　問屋の役割　宿場の休泊業務

第三項　加茂宿の公用通行……486
公用通行の継ぎ立て　新発田藩の通行　新発田藩領の助郷　村松藩領の助郷　東北諸藩役人の通行　越後諸藩の通行　巡見使の通行　寺社の通行と遊行上人の回国
第四項　庶民の旅……499
伊勢参宮　日光参詣　湯治の旅　旅の作法
第五項　信濃川・加茂川の水運……507
信濃川の水運　加茂川水運　渡し舟の利用　五反田と前須田の渡し場
第二節　産業の発達……512
第一項　新発田藩・村松藩の林業……512
新発田藩の御林と御用木　材木の宝庫七谷郷　杉・松・漆　御用杉改め
第二項　和紙……521
和紙の生産地　御用紙の始まり　御用紙の上納　売り紙
第三項　七谷郷の馬産と加茂の馬市……527
馬才判　馬制の改変　馬喰と馬市
第四項　鉛山と袖山出入り……530
宮寄上村の鉛山発見　藩政改革と袖山出入り　鉛山の盛行と衰退
第五項　川の恵みと五反田の鮭漁……535
川辺の恵み　五反田村の鮭漁
第三節　加茂町・上条新町の商業……538
第一項　加茂町・上条新町の商人と職人……538
商人役と四・九の市　菓子屋・魚屋・米屋　酒造業の展開　紙商いと元結・水引　建具・箪笥と加茂縞の生産　秤改めと真柄家
第二項　加茂町と上条新町の市場争い……551
争いの背景　上条村の新規酒造一件　加茂町の狼藉と江戸出訴　和紙独占と紙問屋設置　紙荷物奪取事件と評定所への追訴　上条本村と新町の費用分担争い
第三項　他国商いする商人……565
中沢吉之丞の会津塩請負の試み　蝦夷地御用米の送り出し　桂屋忠左衛門の松前・箱館交易　北前船諏訪丸による商売　呉服商と閻魔市　上条新町の商人と蒟蒻粉

第八章　宗教と文化……577
第一節　庶民の信仰……578
第一項　神社・神職と知識人……578
地域社と祭祀の系譜　伊勢信仰の広がり　垂加神道と市域の神職　神祇道見回りと気吹舎　鷲尾甚助と気吹舎　雛田葵亭と古学魂　幕末の知識人たち
第二項　庶民と仏教……591
寺院の消長　寺請制度の成立　高野聖の活動　曲がり角の仏教　回国の聖と巡拝者　石塔・石仏と庶民信仰　修験の分布　組織の展開
第三項　武家と貴種の伝説……609
賀茂次郎源義綱と伝承　伝承の広まり　小貫の義綱墓所と安国庵　伝承の相克　由緒の変貌
第二節　教育と学問・芸能……620
第一項　文化と文芸の広まり……620
漢学を学ぶ人々　俳諧の始まり　村越菊文と『既望笠』　庶民と俳諧　守村抱儀と加茂郷の俳人たち　天神八景と北越加茂青海八景　知識人と和歌　絵画の広まり　田中文珪と地域の絵師
第二項　芝居と芸能……642
祭礼と芝居の興行　岩井可保世の活躍　一座の結成と巡業　盆踊りと加茂松坂
第三節　地域の医薬と医療……649
第一項　森田千庵と地域の医療……649
薬種人と薬　市域の医者
第二項　森田甫三・千庵と永井慈現……652
森田甫三と医術の継承　森田千庵と蘭方　永井慈現家と医療
第九章　近世社会の動揺と加茂地方……659
第一節　天保の飢饉と社会不安の増大……660
第一項　文政十一年の大地震……660
文政の大地震　地震口説き　宮寄上と加茂新田の小作騒動
第二項　天保の飢饉……665

天保郷帳の作成と新発田藩・村松藩の高直し　天保四年の大凶作　天保七年の大凶作　町の治安と陣屋誘致運動
第二節　幕政の混迷と諸藩の動向……675
第一項　桑名藩預り所と新発田藩・村松藩……675
天保の改革と加茂地方　幕領の再編と桑名藩預り所　預り所柏崎役所の支配　新発田藩の勧農政策と改革　村松藩堀氏の城主格拝命と改革　博徒の横行とすさむ若者……691
第二項　幕末の動乱と加茂地方……691
新発田藩の十万石高替え　軍政改革と農兵私領渡しの風聞と幕府への献金　文久元年の加茂町騒動とチョボクレ　大河津分水問題と加茂地方　会津藩の越後進出と村松藩正義党一件　慶応二年の米価高騰と不穏な世情　新潟諸藩会議の開催　草莽運動と王政復古
主要参考文献……710
資料提供者・協力者一覧……724
執筆者一覧……728
加茂市史編さん関係者名簿……729
人名・地名索引……732